

# 書く楽しさ知り 伸び伸びと

## 第15回 手書き文字ばんざい!



書きの文字  
写・書道って  
すばらしい  
れいに美しく  
字を書こう  
の美しさは  
文化のバロメーター

手書き文字ばんざい!  
読書週間初日の10月27日が「文字・活字文化の日」に制定された2005年、本院と読売新聞社が始め、毎年10月に開催している。

### 思い思いに言葉選び筆握る

今回のテーマに沿って選ばれた手本の文字は、「絆」「なかま」「夢」などの10種類。会場では、熱心に筆を運ぶ子どもや、その様子を動画に収

める保護者、完成した作品を持って友達同士で写真を撮り合う姿などが見られました。前年に続いて参加した堺市西区の小学5年・小林美貴さん(11)は、「行書や草書など、普段書かない書体の文字を、たくさん書けるのがうれしい」と話し、提出作品は前回と同じ「和」の文字



オープンングでは、同年度の日本書芸院役員展で魁星作家に選ばれた同院一科審査委員、藤林聚香さんが揮毫。力強い筆さばきで「個の光が見えない力を生み出す」と書き上げると、会場にはため息とともに大きな拍手が起きました。続いて、読売新聞大阪本社の橋本誠司・取締役事業本部長が、「書道

「普段、書道はしていないのですが、年に1回、家族みんなで楽しめるイベントとして参加しています」と話すのは、兵庫県尼崎市から来た小林淳一さん(39)。「学校の書写の時間よりもたくさん書ける」と目を輝かせる長女の小学4年・夏凜さん

「10」、集中して臨書を繰り返す次女の小学2年・かのんさん(7)の様子に、母・順子さん(40)は「はやんちゃん子の、いつもとは違う一面が見られます」と目を細めていました。配布物には色紙型のカレンダーも含まれており、参加者は空白部分に思い思いの言葉を書き添え、絵の具で色を塗って自分だけの記念カレンダーを仕上げました。また、寄せ書きコーナーでは、子どもたちが筆やサインペンを使い、

書道を通して手で文字を書く楽しさを知ってもらおう「第15回手書き文字ばんざい!」が令和元年10月13日、大阪市中央区のOMビルで開催されました。今回のテーマは「未来へ続く和・輪・環」。幼児から大人まで約300人の参加者は、様々な書体で書かれた手本を見ながら臨書をしたり、大きなパネルにメッセージをつづつたりして手書きの楽しさに触れました。

字を選びました。書き上げた作品を持ち上げ、「少しうまくなったかな」とほほ笑んでいました。和歌山市の河野健太君(4)は、姉の小学3年・菜々子さん(9)の横で、初めて筆を握って、「わ」の文字に挑戦。「ちよっと難しい」と言いながらも真剣に色紙に向かう様子に、母・のり子さん(46)は時々、手を添えながら、優しくアドバイスをしていました。

#### 参加者募集

#### 令和2年 第16回手書き文字ばんざい!

- 【日時】 令和2年10月11日(日)午後1時から
- 【会場】 OMMビル2階Cホール(大阪市中央区)
- 【申込】 代表者の住所、氏名、電話番号、参加者数、参加者全員の氏名、年齢、学年を明記して、FAXかはがきで日本書芸院事務局宛てにお申し込みください。※参加無料。小学生以上が対象で定員300人(先着順)。小中学生は保護者同伴。用具類は不要。
- 【主催】 公益社団法人日本書芸院、読売新聞社
- 【後援】 文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、読売テレビ(申請予定)
- 【協賛】 あかしや、呉竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂(予定)

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により中止となる場合がございますので日本書芸院ホームページをご確認ください。

伸び伸びと「書くこと」を楽しみました。提出作品が出そろったところで、「第14回全日本小学生・中学生書道紙上展」と「第24回全日本高校・大学生書道展」の優秀者13人による学生代表者揮毫が会場中央で行われました。記念カレンダーを手に、会話を弾ませながら会場を後にする参加者からは、手書きを十分に楽しんだ様子が見えられました。

- 【主催】 公益社団法人日本書芸院、読売新聞社
- 【後援】 文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、読売テレビ
- 【協賛】 あかしや、呉竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂(50音順)